



News Release

一般社団法人日本物流団体連合会
Japan Association for Logistics and Transport

〒100-0013
東京都千代田区霞が関 3 丁目 3 番 3 号
全日通霞が関ビル 5 階
TEL: 03-3593-0139
FAX: 03-3593-0138
URL: www.butsuryu.or.jp

令和 7 年 6 月 13 日

第 26 回「物流環境大賞」各賞を決定

～ 大賞を「青森県産りんご モーダルシフトの取り組み」に決定 ～

一般社団法人 日本物流団体連合会（略称：物流連）は、このほど、第 26 回「物流環境大賞」の受賞者を決定しました。本賞は、物流部門における環境保全の推進や環境意識の高揚等を図り、物流の健全な発展に貢献された団体・企業または個人を表彰する制度で、今回が 26 回目の表彰となります。

選考委員会(委員長：流通経済大学名誉教授 野尻俊明 氏)による選考の結果、「物流環境大賞」には、① つがる弘前農業協同組合、② 日本通運株式会社 仙台支店 ロジスティクス第二部 青森・大館物流事業所 弘前営業課、③ 日本通運株式会社 事業統括本部 通運部、④ 日本貨物鉄道株式会社 東北支社 北東北支店（青森）の 4 者による「**青森県産りんご モーダルシフトの取り組み**」が選ばれました。本案件は、CO₂削減量が多いことに加え、農産物の大規模なモーダルシフト例が少ないこと、荷主と物流事業者が一体となって 2024 年問題に対応していること、出荷が収穫時期に集中しがちな農産物輸送において、出荷の年間平準化に取り組んでいることなどが評価されたものです。

今回は、過去最高（32 件）に近い 31 件の応募が寄せられました。モーダルシフトの案件が多く寄せられましたが、往復輸送、荷主の協力を得てリードタイムを延長したもの、モーダルシフトと、拠点の再配置・荷役改善・回送空コンテナ活用などを組み合わせたものや、輸出入貨物のモーダルシフトなど、多様な取り組みがありました。

モーダルシフト以外では、トラック輸送で、積載率向上や労働負荷軽減を目指したもの、出荷拠点見直しと配送スケジュール調整を組み合わせたもの、さらに、先進技術や新しい発想を活用した取り組みなど、こちらも様々な応募を頂きました。

その結果、大賞のほか、「低炭素物流推進賞」3 件、「サステナブル活動賞」3 件、「先進技術賞」3 件、「日本物流記者会賞」1 件、「奨励賞」20 件と、多数の賞の贈呈が決定しました。受賞案件の概要は別紙の通りです。

表彰式は、6 月 30 日(月)14 時 15 分より「東京プリンスホテル」にて開催されます。

物流連は、今後も環境負荷軽減を目指す取り組みを顕彰し、将来にわたって持続可能な物流の普及促進に貢献してまいります。

以上

事務局：山名

1. 受賞案件一覧（計31件）

「番号」クリック▶そのページへジャンプ

番号	賞	企業・団体名	案件名
1	大賞	① つがる弘前農業協同組合 ② 日本通運株式会社仙台支店ロジスティクス第二部 青森・大館物流事業所 弘前営業課 ③ 日本通運株式会社 事業統括本部 通運部 ④ 日本貨物鉄道株式会社 東北支社 北東北支店（青森）	青森県産りんご モーダルシフトの取り組み
2	低炭素 物流 推進	株式会社ランテック	冷凍品の鉄道モーダルシフト（熊本-東京）
3		① 株式会社赤ちゃん本舗 ② 株式会社啓和運輸	小売り事業者と運輸事業者の協業による 陸送から海上輸送へのチャレンジ
4		① TOYO TIRE 株式会社 ② 井本商運株式会社 ③ オーシャン ネットワーク エクスプレス ジャパン 株式会社 ④ 新洋海運株式会社	国内タイヤ輸送に於ける内航船モーダルシフト変革： 環境負荷（排出CO ₂ ）低減・トラックドライバーの負荷極小化
5	サステナ ブル活動	① 博多運輸株式会社 ② 株式会社ヒューテックノオリン ③ 株式会社日清製粉ウェルナ ④ 株式会社ナカムラロジスティクス ⑤ ロイヤル株式会社 ⑥ 日本貨物鉄道株式会社	冷凍31ftコンテナ利用による環境に優しく持続可能な鉄道輸 送へのモーダルシフト
6		① 株式会社comvey ② 日本郵便株式会社 郵便・物流営業部	郵便ポストに返却できるリユース梱包「シェアバッグ®」で、 売り手・買い手・運び手の3者が互いに協力し合う 「美しい物流」を実現
7		株式会社プロロジス	プロロジスパーク猪名川1太陽光発電電力 自己託送プロジェクト

第26回「物流環境大賞」

「番号」をクリック▶そのページへジャンプ

番号	賞	企業・団体名	案件名
8	先進技術	① 日本通運株式会社 事業統括本部 ネットワーク商品企画部 ② 株式会社ジェイアール東日本物流	NXスーパーエクスプレスカーゴ ～新幹線を活用した都市間輸送における環境負荷低減と、ドライバー拘束時間の削減に向けた商品開発～
9		① 全日本空輸株式会社 ② Lufthansa Technik AG	燃料削減効果をもたらすリブレット技術を 世界で初めて貨物専用機と旅客機の両方に導入
10		① 株式会社NEXT DELIVERY ② 山梨県小菅村役場 ③ 山梨県丹波山村役場 ④ 佐川急便株式会社 ⑤ 富岳通運株式会社 ⑥ 福山通運株式会社 ⑦ セイノーホールディングス株式会社	山梨県小菅村、丹波山村で進む条件不利地域の 物流課題を解決する共同配送の取り組み
11	日本 物流 記者会	① 佐川急便株式会社 ② 株式会社平野屋物産 ③ 全国通運株式会社 ④ 日本貨物鉄道株式会社 九州支社	環境負荷低減プロジェクト モーダルシフトによるパッケージ製品輸送の取り組み
12	奨励賞	① ネスレ日本株式会社 ② 日本貨物鉄道株式会社 ③ 全国通運株式会社 ④ JR貨物ロジ・ソリューションズ株式会社 ⑤ 静岡通運株式会社	環境負荷低減への挑戦：中距離帯大量貨物輸送の拡大 ー現在そしてこれからの世代の人々のためにー
13		① 西濃運輸株式会社 ② 日本曹達株式会社	富山（高岡工場）からの各拠点配送への輸送モード変更
14		① 日清オイリオグループ株式会社 ② 日清物流株式会社 ③ 神奈川臨海通運株式会社	中距離＆短距離輸送における鉄道モーダルシフト化推進
15		① 佐川急便株式会社 ② 株式会社なとり ③ 大宮通運株式会社 ④ 日本貨物鉄道株式会社	株式会社なとりCO ₂ 排出量削減に向けた鉄道へのモーダルシフトの取組み

第26回「物流環境大賞」

「番号」をクリック▶そのページへジャンプ

番号	賞	企業・団体名	案件名
16	奨励賞	① 日本通運株式会社 オートモーティブロジスティクス支店 ロジスティクス営業部 三河第三物流事業所 刈谷コンテナ課 ② 日本ペイント・オートモーティブコーティングス株式会社	愛知県～福岡県、広島県、山口県の自動車用塗料の鉄道輸送への転換(ISOタンク利用)
17		① 株式会社再春館製薬所 ② 佐川急便株式会社 ③ 西久大運輸倉庫株式会社 ④ 日本貨物鉄道株式会社 九州南部支店	環境/品質への取組み トラック輸送からモーダルシフト輸送への挑戦
18		① 日本梱包運輸倉庫株式会社 ② 住友ゴム工業株式会社 ③ 東北三八五流通株式会社 ④ 日本フレートライナー株式会社	タイヤ等自動車関連輸送の 鉄道モーダルシフト往復化
19		① タニコー株式会社 ② 鴻池運輸株式会社 ③ トランコム株式会社 ④ 日本貨物鉄道株式会社	鉄道輸送×トラック輸送で実現する業務用 厨房機器の次世代型モーダルコンビネーション物流
20		① A-Gas Japan株式会社 ② 日本フレートライナー株式会社 ③ 日本貨物鉄道株式会社 ④ 日本石油輸送株式会社	循環型社会創生に向けた不燃性フロンガス 回収・再生工程における、鉄道コンテナ輸送 へのモーダルシフトによる環境配慮型プロジェクト
21		① 佐川急便株式会社 ② ジャパンライフ株式会社 ③ 佐川グローバルロジスティクス株式会社	幹線輸送を倉庫保管とJRコンテナ便に変更
22		① 日本信号株式会社 ② 栃木日信株式会社 ③ 株式会社水上三洋商会 ④ 東京輸送株式会社	4社連携による持続可能な輸送革新 ブレーキシュー輸送のモーダルシフト
23		① 山九株式会社 ② 三井化学株式会社	MCI/大牟田工場⇒三重県四日市市への輸送の 物流導線変更によるCO ₂ 削減の取組み

第26回「物流環境大賞」

「番号」をクリック▶そのページへジャンプ

番号	賞	企業・団体名	案件名
24	奨励賞	① 東京九州フェリー株式会社 ② 久留米運送株式会社 ③ マリネックス株式会社	東京九州フェリー(株)を利用した久留米運送(株)の取組み 関東発九州間有人トラック・無人トラック・トレーラーの3 パターン海上モーダル
25		① 鈴与株式会社 ② 鈴与カーゴネット株式会社 ③ 株式会社LIXIL 生産本部 西日本統括工場 有明工場 ビル加工課 ④ 株式会社LIXIL物流 九州物流センター	熊本県玉名郡から大阪府交野市までの大型車による 陸上輸送からトレーラーによるフェリー輸送へ モーダルシフト
26		日本通運株式会社 フォワーディングビジネスユニット 国際海運統括部 セールスプロモーションセンター 混載グループ	NXダイレクトコンソリデーション ～内航船を利用した 九州、山口地区発の輸出混載貨物の新サービス～
27		日本通運株式会社 フォワーディングビジネスユニット 国際海運統括部 セールスプロモーションセンター 海運販売企画グループ	NXダイレクトフィーダー ～内航船で輸入貨物を地方港まで海上輸送～
28		① 山九株式会社 ② 三井化学株式会社	MCI/市原工場⇒大阪府摂津市への輸送の 物流導線変更によるCO2削減の取組み
29		① 株式会社住友倉庫 ② ミズノ株式会社	出荷拠点見直しによるCO ₂ 排出量削減及び 2024年問題に起因する運転手不足への対応
30		① 山九株式会社 ② 三井化学株式会社 ③ 三井・ダウ ポリケミカル株式会社	中継輸送(貨物積み替え方式)導入による 輸送効率化の取組み
31		SBS東芝ロジスティクス株式会社	医療装置用包装改善 積層可能な段ボールホルダー 開発による袋入り充填材レス化(CO ₂ 排出量60%削減)

第26回「物流環境大賞」

2. 応募概要

(1) 案件総数 31件

[「番号」をクリック▶そのページへジャンプ](#)

(2) カテゴリー別数

※「カテゴリー」は事務局で便宜的に区分したもので、
応募者が選択したものではありません。

カテゴリー(※)	応募数	案件番号 (番号をクリック▶そのページにリンク)
モーダルシフト(貨物鉄道)	16	1,2,5,11,12,13,14,15,16,17,18,19,20,21,22,23
〃 (海上)	6	3,4,24,25,26,27
〃 (新幹線)	1	8
物流体制再編 (トラック輸送の、体制見直し等)	3	28,29,30
梱包資材の開発・改良	2	6,31
革新技術	1	9
共同輸配送	1	10
再生可能エネルギー活用	1	7
合計	31	



第26回「物流環境大賞」

(3) キーワードと、関連する案件一覧 「番号」をクリック▶そのページへジャンプ

キーワード	関連する 案件番号	キーワード	関連する 案件番号	キーワード	関連する 案件番号
荷主と物流事業者の協力	1,3,4,11,15, 16,18,23,25,29	着地側での保管等による 柔軟な納入対応	16,21	共同輸配送	10
荷役・梱包作業の軽減・ 標準化／荷役分離	4,6,19,22,25	中継拠点での 貨物積替	5,30	(特積貨物) 社内中継網再編	24
31フィート鉄道コンテナ	2,5,14,18,19	中・短距離帯での モーダルシフト	12,14	新幹線の活用	8
積載効率向上 ／集約輸送	11,17,23,28,29	トラックドライバー 負担軽減	25,30	太陽光発電力の 有効活用	7
往復輸送・マッチング輸送	5,14,18,30	物流拠点再配置	3,29	DX技術の活用	12
物流2024年問題	11,13,16,17	輸出入貨物	26,27	ドローンの活用	10
これまでの取り組みを 更に発展	12,16	リユース・回収・再生	6,20	パレット改良	22
梱包資材の開発	6,31	冷凍品の輸送	2,5	(航空機)リフレット技術	9
(災害時等の)代行・代替輸 送スキーム	1,5	海上空コンテナの有効活用	4		
タイヤの輸送	4,18	貨物駅から 遠隔場所で集荷	19		

(どの案件も、1つ以上のキーワードとリンクしています。)

物流環境大賞表彰 各賞の概要

物流環境大賞

物流における環境負荷低減に資する取組みのうち、最も優秀な取組みを実施した事業者等へ授与します。

低炭素物流推進賞

モーダルシフトの推進、輸送網の集約、輸配送の共同化等の物流効率化を図る優れた取組みであって、温室効果ガスの削減に資する優れた取組みを実施した事業者等へ授与します。

【例】

- ・鉄道、海運へのモーダルシフト（ラウンドユースの実現、リードタイムの見直し等があれば尚可）
- ・輸送網集約（拠点集約等）
- ・共同輸配送（情報共有システムの高度化等があれば尚可）
- ・異業種間による共同輸配送

サステナブル活動賞

環境保全に資する優れた取り組み、または環境啓発活動を行い、サステナブルな社会の実現に貢献し、もって物流の健全な発展に貢献した事業者等へ授与します。

【例】

- ・循環経済を推進する物流
- ・環境保全に資する輸送機器の導入（環境対応車等）
- ・環境保全に資する調査・実証事業（海洋プラスチックごみの回収等）
- ・次世代燃料の先行的な使用
- ・環境にやさしい物流施設の整備（太陽光、風力、自然採光、自然換気等を含むもの）
- ・環境保全に資する輸送体系の見直し（館内物流等）
- ・環境啓発活動（環境保全に関する物流情報提供システム等）

先進技術賞

物流の高度化、効率化、デジタル化に対応し、環境負荷低減に資する先進的な技術開発を行い、または先進技術を活用して環境負荷低減に資する物流システム、輸送機器、施設等の創出を図り、もって物流の健全な発展に貢献した事業者等へ授与します。

【例】

- ・AI、IoT等のデジタル技術を活用した先進的な物流システムの構築（物流DXIによる輸送効率の向上・輸送の最適化等）
- ・環境負荷低減に資する先進的な物流施設・輸送機器の開発・活用

日本物流記者会賞

奨励賞に該当する案件の中で、日本物流記者会が特別に選出した取組みを行った事業者等へ授与します。

特別賞

奨励賞に該当する案件の中で、選定委員会が特別に選出した取組みを行った事業者等へ授与します。

奨励賞

その他、物流における環境保全の推進、環境意識の高揚等を図り、もって物流の健全な発展に貢献した事業者等へ授与します。

【凡例】

「(賞 名)」

(カテゴリー)

カテゴリー:事務局で便宜的に区分したものです。

【案件名】

【受賞者名】

【取り組み概要】 (Before ▶ After、CO₂削減)

●● ▶ ▲▲

▲t/▲%

- ・ 取り組み前 ▶ 後で、変わったポイントを記載。
 - ・ CO₂削減量:特に注記のない場合は、年間換算の削減トン数。
年間換算以外の場合は、計算方法を記載。
- ※ CO₂削減量は、案件ごとに、その計算方法や前提が異なるので、
案件どうしで数値を比較することは出来ません。
個々の案件の規模感を把握するための参考値としてご認識願います。

(案件の説明)

- ・ 案件の概要を記載。社名の、敬称や(株)等は省略。

【受賞のポイント】

大賞、部門賞、物流記者会賞について、選考委員会が
評価した受賞ポイントを記載。

【案件1】 青森県産りんご モーダルシフトの取り組み

【受賞者】

- ① つがる弘前農業協同組合
- ② 日本通運株式会社仙台支店ロジスティクス第二部
青森・大館物流事業所 弘前営業課
- ③ 日本通運株式会社 事業統括本部 通運部
- ④ 日本貨物鉄道株式会社 東北支社 北東北支店(青森)

【取り組み概要】 (Before ➤ After、CO₂削減)

トラック ➤ 鉄道コンテナ(12フィート)

▲1,563トン／▲87%
(※全量トラック輸送した想定との比較)

JAつがる弘前のりんごの、トラックから鉄道輸送への大規模なモーダルシフト案件です。同りんごはブランド力を活かして全国各地に出荷されていますが、その遠距離輸送の安定性を将来にわたって確保していくため、荷主・物流事業者が一体となってこの取り組みを推進しました。北海道から九州に至る遠距離の輸送比率が高いため、多くのCO₂を削減出来ました。また、鉄道の輸送障害に備え、日本通運のSea & Rail輸送網も活用して関西➡九州間で船舶を一部利用しています。

【受賞のポイント】 CO₂削減規模が大きいことや、農産物の大規模なモーダルシフトが珍しいことに加え、荷主も一体となって物流2024年問題に対応していること、一般的に、収穫時期に出荷が集中しがちな農産物輸送において、年間を通じた出荷の平準化に取り組んでいること、さらに輸送障害時の代替策を確保していることなどは、最近の様々な物流課題に対して、一つの模範的解決策を示すものであり、「大賞」にふさわしいと評価された。

【案件2】 冷凍品の鉄道モーダルシフト(熊本-東京)

【受賞者・団体】
株式会社ランテック

【取り組み概要】 (Before ➤ After、CO₂削減)

トラック(冷凍車) ➤ 鉄道コンテナ(31フィート冷凍)

▲178t／▲76%

熊本地区から東京地区向け 冷凍品輸送のモーダルシフト案件となります。2024年問題により、長距離のトラック輸送にリスクを感じていた顧客に対してランテックが働きかけて実現しました。同社所有の31フィート冷凍鉄道コンテナに搭載されている「GPS動態温度監視システム」により鉄道輸送中でも庫内の温度管理が可能であり、トラック輸送時と変わらない輸送品質を維持しつつ、モーダルシフトを実現しました。

【受賞のポイント】

鉄道輸送中も庫内温度の遠隔管理が可能なシステムを利用し、冷凍品の鉄道輸送に取り組んだことにより、温度管理の必要な貨物においてもトラックと遜色ないレベルでモーダルシフトが可能であることを示して、その分野における低炭素物流推進の具体例となったことが評価された。

【案件3】

小売り事業者と運輸事業者の協業による陸送から海上輸送へのチャレンジ

【受賞者・団体】

- ① 株式会社赤ちゃん本舗
- ② 株式会社啓和運輸

【取り組み概要】（Before ➤ After、CO₂削減）

トラック ➤ フェリー
+ フェリー航路に合わせた拠点新設、九州内配送の効率化

▲849t／▲68%

店舗からの回収物流の手配に困難を感じたことをきっかけとして、物流体系全体を見直し、海上モーダルシフトと、九州内の拠点再配置を組み合わせることでCO₂削減効果を一層高めた取り組みです。赤ちゃん本舗製品の、大阪➡九州間の幹線輸送は、3つのフェリー航路（門司・別府・志布志）を活用し、港近傍などに計4か所の拠点を新設（トラック輸送時は1か所のみ）し、九州内のトラック配送距離の削減（実施前比 約半減）も併せて達成しました。荷主と物流事業者の緊密な協力体制により実現した案件です。

【受賞のポイント】

幹線輸送のモーダルシフトと、拠点再配置による域内輸送の大幅な効率化、更に回収物流も組み合わせることで、低炭素物流推進の効果を2重3重としている点、さらに、荷主と物流事業者の全面的な協力体制があってこそ可能であった点が評価された。

【案件4】 国内タイヤ輸送に於ける内航船モーダルシフト変革：
環境負荷(排出CO₂)低減・トラックドライバーの負荷極小化

【受賞者・団体】

- ① TOYO TIRE株式会社 ② 井本商運株式会社
- ③ オーシャン ネットワーク エクスプレス ジャパン 株式会社
- ④ 新洋海運株式会社

【取り組み概要】 (Before ➤ After、CO₂削減)

長距離トラック➤内航船(空コンテナ回送を活用)＋短距離トラック

▲256t／▲56%

三重県(TOYO TIRE桑名工場)から広島県へのタイヤ輸送で異なる複数の関係者が協力し、大規模海上モーダルシフトに取り組みました。船社協力による海上直行航路(四日市～広島間)新設と海上コンテナ活用による空コンテナ回送削減(排出CO₂の削減)、既存設備共用による積荷ワークの改革(トラックドライバーの負担軽減・作業時間の半減)ほか、広島圏域物流拠点の整備と在庫最適配置による海上輸送遅延リスクの最小化など、複合的な変革を行ないました。

【受賞のポイント】

規模の大きなモーダルシフトであることに加え、積込作業の負担軽減、海上空コンテナの活用や内航航路の設定において海運会社と緊密に協力していることなど、荷主と物流事業者の双方がメリットを享受しつつ、低炭素物流推進の取り組みを進めている点が評価された。

「サステナブル活動賞」①

モーダルシフト(貨物鉄道)

【案件5】

冷凍31ftコンテナ利用による環境に優しく持続可能な鉄道輸送へのモーダルシフト

【受賞者・団体】

① 博多運輸株式会社 ② 株式会社ヒューテックノオリン ③ 株式会社日清製粉ウェルナ
④ 株式会社ナカムラロジスティクス ⑤ ロイヤル株式会社 ⑥ 日本貨物鉄道株式会社

【取り組み概要】 (Before ➤ After、CO₂削減)

トラック; 2つの荷主が片道ごと別々に手配 ➤
鉄道コンテナ(31フィート冷凍); 2つの荷主で往復輸送

▲666t／▲83%

関東～九州間の輸送において、2つの荷主のマッチングにより冷凍食品の往復モーダルシフトを実現した案件です。博多運輸が仲介役となり、貸切輸送で往復とも冷凍食品を輸送している珍しいケースとなります。鉄道輸送障害時には、鉄道コンテナをトラックでそのまま輸送し、中間地点でコンテナを積み替える(九州発トラックは九州へ戻る、関東発は関東へ戻る)トラック代行輸送スキームを確立しています。

【受賞のポイント】

異なる荷主同士の冷凍品輸送で、往復のモーダルシフトを成立させている事例が珍しいことに加え、多数の関係者の、納期などの取引条件を調和させていることや、鉄道輸送障害時の対応体制も確立していることは、CO₂削減に留まらないサステナブルな物流を志向した取り組みであると評価された。

【案件6】 郵便ポストに返却できるリユース梱包「シェアバッグ®」で、売り手・買い手・運び手の3者が互いに協力し合う「美しい物流」を実現

【受賞者・団体】

① 株式会社comvey ② 日本郵便株式会社 郵便・物流営業部

【取り組み概要】（Before ▶ After、CO₂削減）

ダンボール（1回使用后、リサイクル） ▶ シェアバッグ（100回以上繰り返し使用可能）

▲700t／▲85%

（※大手EC事業者1社、そのうち20～30%の購入者が利用（これまでの実績に基づく想定）し、10回繰り返し使用された場合の想定；製造～使用およびリサイクル時の排出量を計算し、ダンボール使用時のそれと比較）

comveyが、郵便ポストに返却でき100回以上リユースできるエコ梱包「シェアバッグ®」を日本郵便と共同開発し、EC事業者および一般消費者向けに提供している案件です。ダンボールに比べCO₂排出量を85%以上削減できる他、消費者の「梱包ストレス」軽減につながります。また、出荷時のダンボールの組み立て工程がなくなり、ダンボールよりも容積が小さいため、倉庫での梱包作業時間短縮や、資材保管スペース削減の効果もあります。

【受賞のポイント】

ダンボールのリサイクルにあたり、回収の手間や、その過程でもCO₂が排出されている点に着目し、リユース可能なバックを開発してEC事業者を採用を働きかけ、一般消費者も含めたビジネスモデルとしてCO₂削減に取り組み、サステナブルな物流を目指している点が評価された。

【案件7】 プロロジスパーク猪名川1太陽光発電 自己託送プロジェクト

【受賞者・団体】

株式会社プロロジス

【取り組み概要】（Before ➤ After、CO₂削減）

【余剰電力】

（従来は、FIT制度により、電力会社へ売却するケースが多かった）

➤（設備稼働時から）自己託送による自社内消費

▲2,270t／－（発電量をCO₂排出量に換算）

プロロジスパーク猪名川1の屋根面で発電した太陽光電力の自家消費余剰電力分を、同パーク京田辺へ託送して消費する仕組みを構築しました。余剰電力の取り扱いについては、FIT（固定価格買取制度）が過渡期を迎えて各社とも問題意識を抱える中で、自己託送により自社内で全て消費するスキームを、物流不動産業界として初めて構築したものです。

なお同パークでは、夜間などに自社外から調達する電力も、再生可能電力を調達し、実質100%グリーン電力化を達成しています。

【受賞のポイント】

大規模な太陽光発電によりCO₂を大幅に削減させているのみならず、余剰電力を自社で完全活用する仕組みを確立して、時間や季節によって発電量の波動が大きい太陽光発電の活用方法に一つの解を示し、サステナブルな物流拠点を実現している点が評価された。

【案件8】NXスーパーエクスプレスカーゴ

～新幹線を活用した都市間輸送における環境負荷低減と、ドライバー拘束時間の削減に向けた商品開発～

【受賞者・団体】

- ① 日本通運株式会社 事業統括本部 ネットワーク商品企画部
- ② 株式会社ジェイアール東日本物流

【取り組み概要】（Before ➤ After、CO₂削減）

貸切トラック・航空機 ➤ 新幹線

▲4.3kg／▲94%（10kgの貨物の例；トラック輸送との比較）

JR東日本物流が展開する新幹線荷物輸送サービス「はこビュンQuick」と、日本通運の集配ネットワークを融合した即日配達サービスとなります。自動車や航空機と並ぶ、新たな即日輸送の手段として、小口貨物分野での環境負荷低減の役割発揮が期待されています。サービス展開エリアは、JR東日本新幹線の主要駅地区相互（東京、新青森、盛岡、仙台、新潟、長野、金沢など）となっています。

【受賞のポイント】

新幹線で小口貨物を輸送するという先進的なスキームに、自社の集配ネットワークを組み合わせ、小口急送品の輸送手段として、トラックや飛行機と並び、かつ環境負荷が大幅に低い輸送手段を開発した先進性が評価された。

【案件9】 燃料削減効果をもたらすリブレット技術を 世界で初めて貨物専用機と旅客機の両方に導入

【受賞者・団体】

- ① 全日本空輸株式会社
- ② Lufthansa Technik AG

【取り組み概要】（Before ➤ After、CO₂削減）

（従来ない技術を開発）

▲1,200t／▲1%程度（年間1機あたり）

サメ肌の構造を応用してルフトハンザ テクニク社が開発した、機体に貼付すると空気抵抗削減効果のあるリブレット加工フィルムを、航空会社として世界で初めて貨物専用機と旅客機の両方に導入し、燃料消費とCO₂排出の削減を図っている取り組みです。

同技術により、飛行中の機体表面の空気抵抗が低減され、燃費を約1%向上させることが出来、CO₂削減につながります。

【受賞のポイント】

先進技術により航空機のCO₂排出を大幅に削減出来ること、また、その技術を旅客機に加えて貨物専用機でも活用していることは、航空貨物輸送分野におけるCO₂削減の、先駆的な取り組みであるとして評価された。

【案件10】 山梨県小菅村、丹波山村で進む 条件不利地域の物流課題を解決する共同配送の取り組み

【受賞者・団体】 ① 株式会社NEXT DELIVERY ② 山梨県小菅村役場
③ 山梨県丹波山村役場 ④ 佐川急便株式会社 ⑤ 富岳通運株式会社
⑥ 福山通運株式会社 ⑦ セイノーホールディングス株式会社

【取り組み概要】（Before ➤ After、CO₂削減）

トラック6台 ➤ トラック4台に集約
+ ドローンによるお買い物代行・フードデリバリーサービス

▲10t／▲29%

条件不利地域における物流課題解決を目指した複合的な取り組みです。

従来、共同輸配送により、配送トラックを集約したほか、合わせて行われている、ドローンによる買物代行とフードデリバリーサービスは、日本で最多（選考時点、(株)NEXT DELIVERY調べ）の配送回数があり、ドローンを活用した配送の取り組みの先導役となっています。

ドローンは、事前に設定した航路を自動運航(レベル3.5)し、NEXT DELIVERYでは全国11自治体で運用(選考時点)しています。

【受賞のポイント】

条件不利・物流困難地域で全般的な物流サービスを維持するため、先進技術であるドローンを積極的に活用し、実験・試行を重ねながらドローンの活用を牽引し、全国各地にも広めている点が評価された。

【案件11】 環境負荷低減プロジェクト モーダルシフトによるパッケージ製品輸送の取り組み

【受賞者・団体】

- ① 佐川急便株式会社
- ② 株式会社平野屋物産
- ③ 全国通運株式会社
- ④ 日本貨物鉄道株式会社 九州支社

【取り組み概要】 (Before ➤ After、CO₂削減)

トラック ➤ 鉄道コンテナ(JR12フィート)
※ 1回あたり輸送量: 約3 ➡ 5tに増加

▲52t／▲81%

印刷物(食品等の充填前のパッケージ類)のモーダルシフト案件です。発・着地ともに、貨物駅の近傍であることを活かし、CO₂の80%以上の削減を実現しています。トラック輸送と比べて輸送日数は伸びましたが、荷主の理解・協力を得て取り組んだものです。トラックよりコンテナの方が積載量が大きいことも、輸送の効率化につながっています。

【受賞のポイント】

トラック比で輸送日数が伸びるにもかかわらず、荷主の理解・協力を得てモーダルシフトに取り組んでいることは、物流2024年問題対応の具体例となる点が評価された。

【案件12】環境負荷低減への挑戦：中距離帯大量貨物輸送の拡大 ー現在そしてこれからの世代の人々のためにー

【受賞者・団体】

- ① ネスレ日本株式会社
- ② 日本貨物鉄道株式会社
- ③ 全国通運株式会社
- ④ JR貨物ロジ・ソリューションズ株式会社
- ⑤ 静岡通運株式会社

【取り組み概要】（Before ➤ After、CO₂削減）

トラック ➤ 鉄道コンテナ(JR12フィート)

▲1,100t／▲63%

ネスレ日本 島田工場から中国・四国地区向け製品輸送の、大規模なモーダルシフトの案件です。同工場から関西地区向けについては、既に2024年2月から鉄道へモーダルシフトされていますが、今回はそれを拡大・発展させた取り組みとなります。

関西地区向けも合わせて、多数の貨物列車に分散して輸送されるため、関係者間での、リードタイム・賞味期限・輸送遅延などの情報共有には、DXも活用をしています。

【参考】 関西地区向けの取り組みは、令和5年度の本賞において「低炭素物流推進賞」を受賞

【案件13】 富山(高岡工場)からの各拠点配送への輸送モード変更

【受賞者・団体】

- ① 西濃運輸株式会社
- ② 日本曹達株式会社

【取り組み概要】 (Before ➤ After、CO₂削減)

トラック(貸切) ➤ 鉄道コンテナ(JR12フィート)

▲472t／▲73%

日本曹達 高岡工場から 横浜ほか各地向け輸送のモーダルシフト案件です。以前は全量をトラック(貸切)で輸送していましたが、2024年問題を控えて、輸送力の安定確保のため鉄道輸送に切り替えたものです。CO₂排出削減に加えて、それまで多くの時間・手間を要していたトラック確保業務の省力化や、繫・閑の時期による運賃差が縮小したことも、効果として挙げられます。

【案件14】 中距離 & 短距離輸送における鉄道モーダルシフト化推進

【受賞者・団体】

- ① 日清オイリオグループ株式会社
- ② 日清物流株式会社
- ③ 神奈川臨海通運株式会社

【取り組み概要】 (Before ➤ After、CO₂削減)

トラック ➤

鉄道コンテナ(31フィート(往復)および12フィート(片道))

▲369トン／▲77%

神奈川⇔大阪間の中距離区間を、自社仕様の31フィートコンテナを使った双方向の往復輸送による積載効率の高い鉄道モーダルシフトと、神奈川⇒埼玉向けの短距離区間において、物流サービス面でトラック輸送と遜色ない鉄道モーダルシフト、この2つの区間での取り組みとなっています。

【案件15】

株式会社なとりCO₂排出量削減に向けた鉄道へのモーダルシフトの取り組み

【受賞者・団体】

- ① 佐川急便株式会社
- ② 株式会社なとり
- ③ 大宮通運株式会社
- ④ 日本貨物鉄道株式会社

【取り組み概要】（Before ➤ After、CO₂削減）

トラック ➤ 鉄道コンテナ(12フィート)

▲243t／▲78%

荷主がCO₂削減に取り組む中で、物流などスコープ3部分の対応策として、埼玉地区の工場および倉庫から、九州地区向け製品をモーダルシフトした案件です。

2か所に分かれている集荷場所を、従来は2台のトラックで同時刻に集荷していましたが、荷主の協力を得て集荷時間をずらして、鉄道コンテナ2個を積載した1台のトラックで集荷することが可能となり、鉄道外(集荷・配達)の部分でもCO₂削減効果を挙げています。

【案件16】 愛知県～福岡県、広島県、山口県の 自動車用塗料の鉄道輸送への転換(ISOタンク利用)

【受賞者・団体】

- ① 日本通運株式会社 オートモーティブロジスティクス支店
ロジスティクス営業部 三河第三物流事業所 刈谷コンテナ課
- ② 日本ペイント・オートモーティブコーティングス株式会社

【取り組み概要】 (Before ➤ After、CO₂削減)

タンクローリー ➤ 鉄道コンテナ(ISOタンク)

▲235t／▲71%

物流2024年問題、カーボンニュートラルへの対策から、高浜工場➡九州・中国地区向けのモーダルシフトに取り組んだ案件です。貨物駅での一時保管サービスを活用することにより、従来のタンクローリー輸送時には難しかった、納入の急な延期等にも柔軟に対応することが可能となりました。

取り組みに際して、変更点が多くあり、荷主・納入先を含めた関係者間で綿密な調整を行った上で実現に至りました。

【参考】九州地区向けの取り組みは、
当連合会 令和6年度「モーダルシフト優良事業者大賞表彰」において「奨励賞」を受賞

【案件17】

環境/品質への取組み トラック輸送からモーダルシフト輸送への挑戦

【受賞者・団体】

- ① 株式会社 再春館製薬所
- ② 佐川急便株式会社
- ③ 西久大運輸倉庫株式会社
- ④ 日本貨物鉄道株式会社 九州南部支店

【取り組み概要】（Before ➤ After、CO₂削減）

トラック ➤ 鉄道コンテナ(12フィート)

▲74t／▲78%

荷主の環境に配慮した経営への取り組みに加え、物流2024年問題への対応として、熊本工場から横浜地区へのモーダルシフトに取り組んだ案件です。10トントラックの貨物を12フィート鉄道コンテナへモーダルシフトする場合、3個以上のコンテナが必要となるケースもありますが、本取り組みでは、試験輸送を繰り返して積載方法を工夫し、コンテナ2個での輸送を可能としました。

【案件18】 タイヤ等自動車関連輸送の鉄道モーダルシフト往復化

【受賞者・団体】

- ① 日本梱包運輸倉庫株式会社
- ② 住友ゴム工業株式会社
- ③ 東北三八五流通株式会社
- ④ 日本フレートライナー株式会社

【取り組み概要】 (Before ➤ After、CO₂削減)

鉄道コンテナ(31フィート)の、
「片道輸送」 ➤ 「往復輸送」

▲68t／▲70%

宮崎～宮城地区間の鉄道輸送において、それまで片道輸送だったものを、復路に新たな荷主の貨物を積載することにより、往復輸送化に成功した取り組みです。

取り組み当初は双方の荷主で納期が合わないためにコンテナの回送が必要となる場合もありましたが、荷主を含めた関係者間で調整を行った結果、同一コンテナの往復に荷物が積載されている、完全往復輸送をほぼ実現することが出来ました。

【案件19】 鉄道輸送×トラック輸送で実現する 業務用厨房機器の次世代型モーダルコンビネーション物流

【受賞者・団体】

- ① タニコー株式会社
- ② 鴻池運輸株式会社
- ③ トランコム株式会社
- ④ 日本貨物鉄道株式会社

【取り組み概要】 (Before ➤ After、CO₂削減)

トラック ➤ 鉄道コンテナ(31フィート)

▲54t／▲63%

福島地区から福岡地区向け業務用厨房機器のモーダルシフト案件です。31フィートコンテナの取り扱いの都合上、東京貨物ターミナル駅までトラックで集荷し、「トレインクロスドック※」を利用することにより、集荷場所と貨物駅が100km以上離れているモーダルシフトのスキームを構築しました。

熟練が必要だった、様々な荷姿の厨房機器の積み込み作業がハードルでしたが、全社的に作業の標準化を図って解決しました。

【※】 東京貨物ターミナル駅構内「東京レールゲート」で、トラックからコンテナに積み替えを行う、鴻池運輸・トランコムのサービス

【案件20】 循環型社会創生に向けた不燃性フロンガス回収・再生工程における、 鉄道コンテナ輸送へのモーダルシフトによる環境配慮型プロジェクト

【受賞者・団体】

- ① A-Gas Japan株式会社
- ② 日本フレートライナー株式会社
- ③ 日本貨物鉄道株式会社
- ④ 日本石油輸送株式会社

【取り組み概要】 (Before ➤ After、CO₂削減)

トラック(ボンベで輸送) ➤ 鉄道コンテナ(12フィート)

▲19t／▲71%

代替フロンガス回収・再生の行程をモーダルシフトしたものです。事業そのものが、回収・再生という循環型社会の一翼を担うものであり、環境負荷の小さいサプライチェーンを模索していたため、鉄道を選択することになりました。保冷機能のある専用コンテナを使い、自社ラッピングを施して取り組みをアピール、さらに長距離輸送による交通事故と荷役事故リスクを軽減出来ることや、輸送ロットが鉄道コンテナに合致していたことも取り組みの動機となりました。鉄道コンテナにシフトしたことで全国各地から回収可能になり、回収箇所の選択肢が増えることに繋がっています。

【案件21】 幹線輸送を倉庫保管とJRコンテナ便に変更

【受賞者・団体】

- ① 佐川急便株式会社
- ② ジャパンライフ株式会社
- ③ 佐川グローバルロジスティクス株式会社

【取り組み概要】 (Before ➤ After、CO₂削減)

トラック ➤ 鉄道コンテナ(12フィート)

▲10t／▲41%

ジャパンライフ 長岡営業所から、同社札幌および福岡地区向け建築資材のモーダルシフト(鉄道)案件です。着側に一時保管倉庫を設け、荷主からの急な発注や、鉄道輸送障害への対応を可能として、CO₂削減効果と合わせて荷主へのサービスレベルの向上を実現しています。

【案件22】 4社連携による持続可能な輸送革新 ブレーキシュー輸送のモーダルシフト

【受賞者・団体】

- ① 日本信号株式会社
- ② 栃木日信株式会社
- ③ 株式会社水上三洋商会
- ④ 東京輸送株式会社

【取り組み概要】 (Before ➤ After、CO₂削減)

トラック ➤ 鉄道コンテナ(12フィート)

▲8t／▲79%

西日本向けの鉄道車両用ブレーキシュー(制輪子)のモーダルシフト案件となります。取り組みにあたっては、コンテナ内に2列積載可能となるようパレットを改良(※)したほか、緩衝材等の回収専用バックを導入して、作業の効率化も図りました。この取り組みの結果、中長距離輸送のモーダルシフト化率は約9割に達しています。

【※】「四方差しパレット」:縦横両方向からフォークリフトのツメを差すことが可能で、工場・倉庫での荷役時は、フォークリフトから見て奥行きが長い方向で、コンテナ積載時は、奥行きが短い方向で使用。

【案件23】 MCI/大牟田工場⇒三重県四日市市への輸送の 物流導線変更によるCO2削減の取組み

【受賞者・団体】

- ① 山九株式会社
- ② 三井化学株式会社

【取り組み概要】（Before ➤ After、CO₂削減）

全区間トラック輸送



大阪まで鉄道輸送(既存の輸送に集約)し、
大阪からトラック輸送

▲103t／▲81%

三井化学大牟田工場から四日市市向け輸送の、鉄道を活用した物流改善の取り組みとなります。大牟田から大阪までは従来からあった鉄道輸送に集約してトラック輸送の削減と鉄道輸送の積載率向上を図りました(大阪～四日市はトラック輸送)。

荷主と物流事業者が協力して物流改善に取り組む中で、多数ある品目・納品先の中から条件を調整し、鉄道とトラックの良い点を組み合わせた物流導線を構築しました。

【案件24】 東京九州フェリー(株)を利用した久留米運送(株)の取組み
関東発九州間有人トラック・無人トラック・トレーラーの3パターン海上モーダル

【受賞者・団体】

- ① 東京九州フェリー株式会社
- ② 久留米運送株式会社
- ③ マリネックス株式会社

【取り組み概要】 (Before ➤ After、CO₂削減)

トラック ➤ フェリー
+ フェリーダイヤに合わせた社内中継網再編

▲1,498t／▲72%

関東地区から九州地区向け 久留米運送のモーダルシフト(フェリー)を行った案件です。

久留米運送のリードタイムである九州全域翌々日午前中着を維持した中で、フェリー利用に転換。久留米運送社内の中継網の再編も同時に実施し、顧客に対して変わらないリードタイムを提供しております。

上り便の都合により、有人トラックの利用もありますが、ドライバーの運転時間削減効果も挙げています。

【案件25】 熊本県玉名郡から大阪府交野市までの
大型車による陸上輸送からトレーラーによるフェリー輸送へモーダルシフト

【受賞者・団体】

- ① 株式会社LIXIL 生産本部 西日本統括工場 有明工場 ビル加工課
- ② 株式会社LIXIL物流 九州物流センター
- ③ 鈴与株式会社
- ④ 鈴与カーゴネット株式会社

【取り組み概要】（Before ➤ After、CO₂削減）

トラック ➤ フェリー(トレーラー)
+ 切り離れたシャーシに工場側で荷役

▲241t／▲40%

LIXIL製品を、トラックから海上輸送へモーダルシフトした案件です。トラック(単車)からトレーラー輸送に切り替わり、荷役分離(荷役作業を、乗務員から工場側へ変更)による乗務員拘束時間の削減と、大型シャーシ化による台数の削減も合わせて実現しています。

切り替えにあたっては、荷主の協力により、専用ラックの高さ変更やフェリーダイヤに合わせた納品時刻の繰り下げも行いました。

【案件26】 NXダイレクトコンソリデーションサービス ～内航船を利用した九州、山口地区発の輸出混載貨物の新サービス～

【受賞者・団体】

日本通運株式会社 フォワーディングビジネスユニット
国際海運統括部 セールスプロモーションセンター混載グループ

【取り組み概要】 (Before ➤ After、CO₂削減)

▲8t／▲77%

トラック; 博多港→神戸港→北米、欧州等、各仕向地

➤

内航船; 博多港→東京港→北米、欧州等、各仕向地

北米、欧州向け輸出混載貨物を中心に、従来、博多港➡神戸港をトラック転送していたものを、博多港～東京港のNX日本通運の内航船にモーダルシフトすることにより、環境負荷低減に加えて、リードタイム短縮と、海外港での中継回数減による輸送品質改善、さらには30%以上のコスト削減(条件による)を同時に達成することが出来ました。

【案件27】 NXダイレクトフィーダー ～内航船で輸入貨物を地方港まで海上輸送～

【受賞者・団体】

日本通運株式会社 フォワーディングビジネスユニット

国際海運統括部 セールスプロモーションセンター 海運販売企画グループ

【取り組み概要】 (Before ➤ After、CO₂削減)

トレーラー ➤ 内航船

▲1t／▲59% (東京港から山形市への輸送例)

輸入貨物を対象に、従来、陸上ドレイジ輸送されていた貨物を、NX日本通運が手配する内航コンテナ船(東京～仙台他)を利用してモーダルシフト(海上)する案件です。輸入貨物の国内輸送は、輸入者側で手配することが多いことを利用し、NXグループの責任と国内ネットワークで最終配達先までの輸送を可能としたサービスです。

従来、使用後の空バンを京浜港へ返却する必要がありましたが、この取り組みでは地方港での返却を可能としています。

【案件28】 MCI/市原工場⇒大阪府摂津市への輸送の 物流導線変更によるCO₂削減の取組み

【受賞者・団体】

- ① 山九株式会社
- ② 三井化学株式会社

【取組み概要】（Before ➤ After、CO₂削減）

トラック輸送：

平均積載率73%（市原→最終納入先）



平均積載率100%（市原→大阪SP）

▲3t／▲15%

三井化学 市原工場から大阪地区向けトラック輸送について、集約輸送により積載率を向上させた取組みとなります。従来は、最終納入先向けを単独輸送していましたが、いったん大阪SP（摂津市）向けに、他の納入先向けと集約して輸送し、単独で輸送するのは、大阪SP～最終納入先間のみとしました。

CO₂ 削減とともに、乗務員運転時間を大幅に削減することが可能となりました。

【案件29】 出荷拠点見直しによるCO₂排出量削減 及び2024年問題に起因する運転手不足への対応

【受賞者・団体】

- ① 株式会社住友倉庫
- ② ミズノ株式会社

【取り組み概要】（Before ➤ After、CO₂削減）

▲41t／▲75%

- ① 輸送区間の変更（拠点移設による）：
【大阪 ⇒ 愛知・千葉】 ➤ 【厚木 ⇒ 愛知・千葉】
- ② 配送曜日の変更：
【(月)、(火)】 ➤ 【(火)】 + 積載率向上

出荷拠点移設によるトラック輸送距離の短縮と、配送スケジュール変更によるトラック台数削減・積載率向上に同時に取り組み、CO₂排出を、モーダルシフト実施レベルに大幅削減した案件です。

具体的には、① 発送拠点を、従来の大阪から、納品量の多い千葉に近い厚木に移設、② 月曜オーダー当日出荷、火曜納品と火曜オーダー当日出荷、水曜納品で分散していた出荷を月曜オーダー、火曜出荷、水曜納品に変更した。出荷日が集約されたことで、積載率の平均化・向上により、トラック台数を半分以下へ、CO₂排出量も▲75%を達成しました。

【案件30】 中継輸送（貨物積み替え方式）導入による輸送効率化の取組み

【受賞者・団体】

- ① 山九株式会社
- ② 三井化学株式会社
- ③ 三井・ダウ ポリケミカル株式会社

【取組み概要】（Before ➤ After、CO₂削減）

片道輸送が2行路



往復輸送が1行路

＋ 中継積替輸送導入によるドライバー負荷軽減

▲32t／▲38%

別々に手配されていた市原⇔広島間の片道輸送2行路を往復化すると同時に、大阪に中継拠点を立てて上／下トラックどうしで貨物を積み替え、それぞれの出発地へ戻るスキームを構築し、① 往復化による積載効率向上と、② ドライバーの労働負荷軽減（1行程往復 4泊5日 ➡ 1泊2日へ短縮）を実現しました。

荷主の物流を、物流事業者が3PLとして協力して分析して実現した取組みとなりますが、中継拠点の活用は初めての手法となります。

【案件31】 医療装置用包装改善 積層可能な段ボールホルダー開発による袋入り充填材レス化(CO₂排出量60%削減)

【受賞者・団体】

SBS東芝ロジスティクス株式会社

【取り組み概要】 (Before ➤ After、CO₂削減)

大量の緩衝材を充填 ➤ ダンボールホルダー

▲9t／▲60%

※製造～使用、廃棄時の、従来方法との比較

医療装置部品の梱包材を、独自に開発した段ボールホルダー等に置き換えて、従来、大量に必要だった緩衝材の全廃と併せて、貨物全体の容積及び開梱作業時間の大幅縮減を図った案件です。

部品は湾曲しているため、互い違いに重ねられるよう段ボールホルダーの形状を工夫して、容積と開梱作業時間を削減、また段ボールホルダーの内装仕切りを可変式として、部品の形状が異なっても1種類の包装へ統合可能としています。